

令和7年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中一貫教育(9年間)を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

校長

松谷 薫

学力向上推進員

坂東 綾希

【各校の取組状況の把握について】

管理職や小中教員による授業参観や報告、小中合同研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|--|--|---|
| ○落ち着いて授業に取り組むことができ、与えられた課題にも、提出期限を守って真面目に取り組むことができる生徒がほとんどである。 ●学習習慣の定着が不十分なため、授業中に理解した内容が定着していなかったり、身に付けた知識等を関連付けて考えたりすることに課題がある。 | ・自ら課題を設定したり、仲間と協働したりしながら、課題解決や探究に取り組むことができる。 ・課題を丁寧に取り組み、ミライシードや自主勉強ノート等を活用して反復練習し知識技能を身に付けることができる。 ・読書を通して、言語活動の基礎となる文章表現を学び、日常生活の中で活用できる。 ・身に付いた知識等が既習事項と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 | ・発問を工夫するなど、生徒が興味関心をもって学習に取り組むことができるような授業展開を考える。 ・休み時間や放課後等に「質問教室」を開催することで、生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・朝学習で、読書やミライシードに取り組ませる。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。 | ・朝学習で取り組んだ内容について、帰りの会などを活用し、確認する時間を設け、繰り返し学習による基礎学力の定着を図る。 ・朝学習以外でもミライシードを活用して、個々の習熟度に合わせた課題に取り組ませることで、個別最適な学びを充実させる。 | ・「質問教室」の定期開催や朝・昼の学習、セミナーテストの実施により、基礎学力の底上げと学習習慣の定着が進んだ。 ・「ミライシード」等のICTやプリントを活用し、個々の習熟度に合わせた学習に取り組ませることで知識定着が進んだ。 ・取組の「可視化」により課題提出率が向上したほか、教員間の相互授業参観により組織的な授業改善が進んだ。 | ・テスト日程の事前周知や保護者と連携した学習計画作りを行い、生徒が見通しをもってPDCAを回せるようにする。 ・ICTによる反復学習の徹底に加え、協働学習でのアウトプットの機会を増やし、確実な知識定着を図る。 ・「認め励ます指導」を継続しつつ、「めあて・振り返り」を明確にさせ、学習内容の理解度と意欲を高める。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|--|--|---|
| ○ペア学習やグループ学習などに積極的に参加して自分の考えを发表或し、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる。 ●記述式の問題を苦手とする生徒が多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取捨選択し、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。 | ・タブレットを活用して、必要な資料や関連情報を収集し、それらをもとに考えを比較や整理しながら自分の考えをまとめることができる。 ・記述式の問題に対して、伝えたいことや考えを整理してわかりやすく書くことができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。 | ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定し、生徒の発言や発表の内容に応じて、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる授業づくりに取り組む。 ・授業や定期テストで記述式の問題に慣れさせる。 ・ホワイトボードやICT機器を効果的に活用した発表や話し合い活動を行わせ、プレゼンテーションなど、自分の考えを伝える機会を設ける。 | ・単なる知識の再生に留まらないよう、授業や定期テストにおいて、目的・場面・状況といった「条件」を設定した問いを増やし、知識を活用する力(思考力)を養う。 ・ホワイトボード・ミーティング®等を活用して多様な考えを可視化・構造化することで、他者の意見を参照しながら自らの考えを広げたり深めたりする活動を充実させる。 | ・Canva等のICTを活用した情報収集・分析・発表活動により、生徒の表現力が向上し、他者の考えを取り入れて学習を深める姿が見られた。 ・ホワイトボード・ミーティング®や質問の技カードの活用により、思考が可視化され、安心して対話を楽しみ深めることができた。 ・授業や定期テストにおいて、目的・場面・状況といった条件を設定した問いを導入し、知識を活用する機会を創出した。 | ・生成AI等を活用して多様な視点や考えに触れさせ、思考・判断の幅を広げるとともに、個々の思考力をより高める授業を展開する。 ・ホワイトボード・ミーティング®等の対話活動を繰り返し実施し、相互フィードバックやファシリテーション能力を強化することで、生徒主体の問題解決を図る。 ・苦手意識の強い記述問題に対し、日常的に書く機会や相互評価を取り入れ、対応力を強化する。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|---|--|---|
| ○各授業に対して一生懸命に取り組むことができ、学力を高めるために自ら課題を見つけて取り組むことができる生徒もいる。 ○英語検定に対する向上心をもつ生徒が多い。 ●テスト前における家庭学習の時間にばらつきが見られ、自分で計画を立てて学習課題に取り組もうとする姿勢に課題がある。 | ・自分の課題を自ら見つけ、目標を定め、計画や見通しを立てて学習等に取り組むことができる。 ・英語検定の受検率80%以上である。 ・各教科の学習に主体的に参加し、自分に合った学習方法を見つけて取り組むことができる。 | ・自主勉強ノートやエラーズノートを活用することで、課題を明確にし、生徒が主体的に学習できるように支援する。 ・休みや放課後に、英語対策教室を設ける。 ・タブレットを活用し、個々のレベルに応じた教材に取り組ませる。 ・定期テスト前には学習計画を立てて計画的に学習に取り組ませ、授業や放課後に学び合いができる場を設ける。 | ・学習計画表の振り返りを行い、今後の課題づくりや学習・生活習慣の改善に生かす。 ・英検等の受検推奨を学習意欲向上のきっかけとし、質問教室への自発的な参加を促す。生徒自身が疑問解決を通して「分かる」「できる」を実感できる環境を整え、主体的な学習習慣の定着を図る。 | ・エラーズノートや学習計画表の活用により、自らの学習状況を把握し、見通しを持って家庭学習に取り組む姿勢が向上した。 ・Canva等のICT活用や学び合い活動の定着により、学習への興味が高まり、休み時間にも生徒同士で教え合うなど、自発的な学習態度が見られるようになった。 ・英語検定の受検率は93%であり、特に中3の3級以上合格者は100%に達した。 | ・テスト前だけでなく日々の学習状況を振り返らせ、教師によるフィードバックを行うことで、短期・長期的な計画立案能力を強化する。 ・振り返りの記述時間を授業内に確保し、書き方の手順を段階的に指導したり、机間指導による個別の助言を行ったことで、自律的な学習習慣の定着を図る。 ・生徒の興味に基づく探究的な学習を取り入れるとともに、家庭との連携を強化し、家庭学習の習慣化を図る。 |